



夢

キャンドルナイト 2025

夢キャンドルナイト 2025 に寄せて



筑波大学 芸術系
助教 加藤 研

筑波大学芸術系の加藤研です。

私たちの研究室では、学生とともにキャンドルのレイアウト・デザインを担当しています。

昨年は、多くの大人の方々、そしてボランティアとして参加した高校生の皆さんが、心をひとつにして準備を進めてきましたが、残念ながら大雨のため、キャンドルに火を灯すことができませんでした。

今年はその「リベンジ」として、昨年の図案をさらにパワーアップさせて挑戦しています。

このイベントの何より素晴らしいところは、地域の大人たちが本気で子どもたちを楽しませたい、夢を応援したいという思いで動いていることです。

また、その思いに共感した高校生の皆さんが、大人と一緒に力を合わせていることも本当に素晴らしいことだと思います。準備メンバーのグループラインでは、日々たくさんのメッセージが飛び交い、まさに「地域で子どもを育てる」という熱意が感じられます。

子どもたちが夢や希望を書いたメッセージカードは、それぞれがひとつのキャンドルシェードになっています。

たくさんの小さな灯が集まって大きな光の風景をつくり出すように、子どもたち一人ひとりの夢と希望が、これからの下妻の明るい未来を照らしていくことを心から願っています。



夢

キャンドルナイト 2025

夢キャンドルナイト 2025 に寄せて



筑波大学院建築デザイン専攻
田中 弥呼

今年のテーマは去年に引き続き、「夢と希望と地球温暖化防止」。未来の子どもたちが、夢と希望で溢れた世界にいられるように、地球を豊かなまま保つことを呼びかけます。

今年のグランドデザインは、「地球温暖化防止」「夢と希望と50年後の未来の子どもたち」の2つを軸にデザインをしました。

まず、地球をジョウロに見立て、地球の水で植物の芽が育っていく様子を描きました。また、地球のジョウロから注がれる水を植物の葉や花などに見立て「夢と希望」を表し、植物の芽はこれから育つ「未来の子どもたち」を表現しています。地球から注がれる水(夢と希望)が植物の芽(未来の子どもたち)を育て、緑豊かで夢と希望に溢れた世界をつくるという願いを込め、デザインをしました。



夢

キャンドルナイト 2025

夢キャンドルナイト 2025 に寄せて



茨城県教育委員会
教育長 柳橋 常喜

このたび、「夢キャンドルナイト 2025」が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

また、「50年後の子ども達へ」のテーマのもと、井上理事長、柴実行委員長を中心に、趣旨に賛同された団体、学校、地域住民の皆様が、地球温暖化問題や子どもたちの未来の夢の応援、さらにはウクライナの子どもたちへの支援活動等に継続的に取り組まれている熱意とご尽力に対し、深く敬意を表する次第です。

さて、県では、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念として、時代の変化に対応し、グローバル社会で活躍する「人財」や地域社会を支える「人財」の育成を推進しております。そのためには、学校の中だけでなく、地域に出かけたり、多くの人と出会ったりする体験活動を通して学んでいくことが重要です。多様な学びの機会となる「ラーケーション」、学校と地域が一体となり子どもたちを育てていく「コミュニティ・スクール」、「地域学校協働活動」など、学校と保護者、地域の方々との信頼関係を築き「社会総かがり」で子どもたちの育成に取り組んでおります。

そのような中、幻想的なキャンドルの灯火のもと、地球温暖化、世界平和、将来の夢について、家族や友人と静かに語り合う機会を提供している本イベントは、異なる文化や価値観を理解し、多様な視点から物事を考えることができる子どもたちの育成に有意義な機会になると考えております。

結びに、今後も、子どもたちの学校外における体験活動を一層ご支援いただき、「夢キャンドルナイト 2025」の開催が、環境問題や絆の大切さなどについて改めて考える契機となりますようご期待申し上げますとともに、本イベントのご成功と参加される皆様のご健勝とご活躍を心から祈念し、挨拶いたします



夢 キャンドルナイト 2025

夢キャンドルナイト 2025 に寄せて



下妻市教育委員会
教育長 中山 均

「夢キャンドルナイト2025」が盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。

2007年に始まった本イベントが今年も開催されることは、関係各位のひとかたならぬご尽力の賜であり、深く敬意を表します。

さらに今回は、6月からネーミングライツの運用が始まった粉クリ・ドームしもつまに会場を移し、本イベントが開催されます。これにより、これまで以上に中心市街地の賑わいが増すことを心から期待しております。

さて、今年の夏は記録的な猛暑に見舞われたため、例年以上に子どもたちの登下校や学校活動、教職員の勤務等における暑さ対策に取り組みました。キャリア教育にも注力し、地域の住民や企業の協力を得ながら、子どもたちの将来像のイメージづくりや夢の具現化の後押しをしています。

一方、日本各地では大勢の人が地震、豪雨、竜巻等の被害を受け、援助を求めています。世界を見渡すと、至るところで争いが起き、拡大し、続いている状況があります。

そのような状況の中で、「地球温暖化問題について考える機会を提供すること」「子どもたちの未来の夢を応援すること」「世界の平和を願うこと」「災害で困っている人を助けること」を目的に掲げ、本イベントが開催されます。

粉クリ・ドームしもつまに灯された無数のキャンドルのもと、多くの人が集い、それぞれに地球、未来、平和などについて考えることは、持続可能な社会を実現するために非常に大切なことであると考えます。

私たちは、本イベントの成功を心から願うとともに、今の子どもたちの夢の実現を応援し、未来の子どもたちに持続可能な社会を引き継いでいくため、力を合わせて努力してまいります。

結びに、子どもたちに夢と希望に満ちあふれた平和な未来が開けることを期待するとともに、「夢キャンドルナイト2025」の成功と皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。



夢

キャンドルナイト 2025

夢キャンドルナイト 2025 に寄せて



常総市教育委員会
教育長 服部 仁一

「夢キャンドルナイト 2025」が、多くの皆様の参加のもと、盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。平成 19 年に 14,284 本のキャンドルとともに生まれたこの灯も、途中新型コロナウイルスの影響で中断も余儀なくされましたが、直面する課題を見つめ直し、未来を自らの手で形づくる決意の象徴として、長く地域に溶け込み語り継がれてきました。

本年は気候変動を踏まえ、開催を工夫され、屋根付きドームという新たな形で「夢キャンドルナイト 2025」を迎えます。雨風の心配が少ない場所で、灯りの温もりを皆さんで共有することは、描いた「将来の夢」を語りあうイベントの枠組みを超え、地域全体で SDGs を日常へと落とし込み、次世代へと受け継いでいく教育的試みであるとも考えています。

私は灯りをともす一つひとつの行為が判断力・協働・創造性といった力を磨く教育の一部となると思っており、このような素敵なイベントを開催されることに尽力された関係者の方々に大いに感謝申し上げます。

最後に、本イベントのさらなる発展を期待申し上げますとともに、参加される皆様方のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



夢 キャンドルナイト 2025

夢キャンドルナイト 2025 に寄せて



八千代町教育委員会
教育長 関 篤

「夢キャンドルナイト 2025」が多くの皆様のご尽力とご参加のもと、盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

50年後の子供たちへという趣旨のもと、子供たちの「夢」が展示され、キャンドルで彩られる・・・何と素晴らしいイベントでしょう。自分の将来に夢と希望をもって進んでいくことは、子供のみならず人間にとっての生きるベースです。別の言い方をすれば『意欲』ということです。

私は、『意欲』と『思いやり』をもち、そして『命』を大切にすることが、人生の大きな道標となると考えています。人は一人では生きていくことができません。自分を大切に、他人を大切にして生きていくこと、つまり、思いやる心をもって生きることが社会の基盤です。

さらに、『命』を大切にしていくことこそが生きる土台です。現代社会の課題である地球温暖化問題を考える時、自分自身の生き方を振り返り、どう生きていけばよいかを自分なりの考えをもち、共有していくことが望まれます。世界平和を思う時、『命』のことをまず考えるでしょう。そして、どうすればいいかを問うでしょう。

持続可能な社会の実現、その実現にむけての担い手である人財の育成をするためには、SDGsの推進が不可欠です。「夢キャンドルナイト」は、まさに、このことをねらいとした事業です。そして、これらを考える絶好の機会です。このイベントが、自分自身を見つめる、見つめ直す、決意する場となることを確信します。

最後に、「夢キャンドルナイト」の成功をご祈念申し上げ、関係者のみなさまに厚くお礼申し上げ、お祝いのあいさついたします。



夢 キャンドルナイト 2025

夢キャンドルナイト 2025 に寄せて



県立下妻第二高等学校
校長 島根 千春

「夢キャンドルナイト 2025」が、昨年に引き続き多くの方々の御参加のもと、盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。

例年同様、今年も本校から多くの生徒たちが、ボランティアとしてお手伝いをさせていただくところとなりました。本校でも地域と連携しながら課題を解決していく取り組みを積極的に進めるとともに、ボランティア精神の育成にも努めているところです。参加した生徒にとっても、貴重な経験として、今後の成長につながるものだと考えています。

さて、本活動の趣旨である「地球温暖化問題」や「世界の平和」はそれぞれが「子どもたちの未来」に密接に関わる問題であり、長いスパンで取り組まなければならない問題でもあります。

子どもたちの未来の夢を実現させるためには、現在の大人である私たちが考えを深めたり、行動に移すだけでなく、当事者である子どもたちも同様に、それらに対し考えを深めることが必要不可欠であります。

そういった意味で、この日が子どもたちにとってきっかけの1日となることを願うとともに、キャンドルナイトの成功をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。